

[127]語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/3054018>

出版情報：語文研究. 127, 2019-06-25. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

《会員著書紹介》

廣瀬貞雄 監修 中村幸彦・井上敏幸 共編

『廣瀬先賢文庫家宝書詳細目録』

本書は、昭和四十四年に完成した廣瀬先賢文庫の「家宝書」部の詳細目録であり、平成七年発行の『廣瀬先賢文庫目録』をより詳細に編集したものである。本書の構成は以下の通り。

序 第十一世 廣瀬貞雄

凡例

廣瀬先賢文庫家宝書詳細目録

あとがき 井上敏幸

書名索引

廣瀬先賢文庫は廣瀬貞治氏（廣瀬宗家九世）・正雄氏（同十世）により整理され、昭和四十四年に竣工した廣瀬宗家・咸宜園関係史料を収蔵した文庫である。

中村幸彦氏は廣瀬正雄氏の『廣瀬家学全集』構想に共感し、「淡窓・旭荘の研究は広く廣瀬家学を基盤に置いた視点を必要とする」と指摘した。そして、廣瀬氏が願う「廣瀬家学の発揚」のためには、同文庫の家宝書の詳しい書誌とその内容に触れた『詳細目録』作成の必要があると認識し、調査を実施

した。その遺稿を元に井上敏幸氏が再調査・再編したものが本書となっている。

内容は同文庫の近世後期から明治・大正までの典籍・史料の詳細目録で、咸宜園が伝えた淡窓関係の典籍類と掛屋博多屋の史料、また、近世文人・淡窓・秋子・久兵衛・旭荘・源兵衛・青邨・林外などの膨大な書簡群を収載している。二千通を超えるこれら書簡類の一通一通について、簡略にその内容の一端が記され、読むことのできる目録となっている。本書によって、淡窓・旭荘・久兵衛・源兵衛に通底する廣瀬の家学を読み取ることができるはずである。

（平成三十年八月 廣瀬先賢文庫 A5判 七九六頁 三〇、〇〇〇円（税込））